

# 子どもの本

研究会



## 【私の一冊】『あおいアヒル』

作・リリア／訳・前田まゆみ（主婦の友社）

安永 秀樹



私が菊池市立図書館の館長を拝命し、もうすぐ三年目を迎えようとしています。毎日、難行苦行を笑いに変えながら、図書館として教養の役割を果たすべく職員ともども業務にあたっているところでございます。今回寄稿のお話をいただきましたので、たそがれ館長の拙い文章で申し訳ありませんが、ご笑覧いただければ幸いです。

さて、私がお勧めする本は、『あおいアヒル』という本です。昨年話題となりましたので、読まれた方も多いと思います。特に、認知症のご家族の介護をされている方や高齢のご家族をお持ちの方に読んでいただきたい本です。いつか訪れるであろう、その時にこそ必要となる絵本だと思います。絵本の内容は、青いアヒルがワニの赤ちゃんと出会うところから始まります。アヒルはたくさんの愛情を持ってワニの赤ちゃんを育てます。ワニの成長とともにアヒルは年をとり、そして認知症を発症しワニを拒絶するようになります。私のような単純な人間は読み出してすぐに、アヒルがワニに食べられて天命を全うし、最後まで子供のために尽くすという話だろうと思いましたが、予想とは違ったその後のワニの行動に感動です。

作者のリリアさんは、アルゼンチンで生まれ、子供時代に認知症の祖母を見守る家庭のなかで育ちました。多分そのときのご両親の認知症のおばあちゃんへの接し方が、この絵本の原点ではないかと思えます。認知症の親を介護されている方や、高齢の親と暮らすご家族も多いかと思えます。私たちが赤ん坊の頃、オムツを替えてくれた親。愛情を持って育てられた気持ちを忘れず、いつか訪れるその時は、ワニのようなやさしさと、親のオムツを替えてあげられる人でありたいと思っています。愛情を持って育てる事の大切さと、それによって感謝する心が育まれた子供のお話です。親子の関係を再度自問自答する大変よい機会となりました。自宅の本棚に置いて、人生のどこかで手に取っていただきたい絵本です。

菊池市立図書館では多くの本との出会いの場を提供しています。また、市民の「困った」に寄り添うサービスの充実にも力を入れています。是非お近くにお越しの際はお立ち寄りいただき、「『あなたも図書館に来ればわかる』は本当だった」を、実感してください。職員一同お待ちしております。

（菊池市中央図書館 館長）

2020年9月24日（木） 特定非営利活動法人 熊本子どもの本の研究会 発行

